The Chronological Table of Literary Report in Hokkoku Shinbun Showa No. 7

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/488

『北國新聞』文芸関係記事年表稿（昭和篇⑦）

The Chronological Table of Literary Report in Hokkoku News (Syowa No.7)

森　英一
Eiichi MORI

この年表は本紀要第五十三号（平成16・2刊）の「『北國新聞』文芸関係記事年表稿（昭和篇⑥）」を承けるものである。調査に際しては、金沢大学附属図書館所蔵のマイクロフィルムを使用した。

昭和三十二年

1　1　「前田利家」工清定　5・14　全132回完
〃　開拓地の病床に執った筆―本紙創作第一席の富野さん（☆記事）
〃　「新春詠」（☆5首）近藤芳美
3　「御慶」源氏鶏太
〃　「歳晩年首」（☆5首）尾山篤二郎
〃　「川柳の春」（☆10句）麻生詩郎
〃　詩「新春を迎ふ」佐藤春夫
〃　「聖餐のパン」（☆7首）森美弥
〃　「はじめの光」（☆3首）佐藤佐太郎
〃　「橋居迎春」（☆10句）冨安風生
4　夕「茶杓を削る」青山兵吉
6　「〃語りの芸〃への関心」安藤次郎
1　6　「新年創作合評」伊藤武雄、森山啓
7　「新年新文学新しい人間」谷口陸男
〃　「ロンドンの太陽族」中橋一夫
〃　「今年のホープ文学界」無署名
〃　「近詠」（☆5首）近藤芳美
8　「三つのW」正宗白鳥
〃　「梅」正宗厳敬
〃　「いのちを大切に」網野菊
〃　「鶏の社会」平林たい子
9　「軍鶏」飯田蛇笏
10　「暁鳥師の信源とその展開」橋本芳契
11　「新しい年の文壇」伊藤整
15　「欲望満たす三つの道」高橋義孝
〃　「国家と戦争と人間と」伊藤武雄
17　「書評森山啓『青海の簾』」小林井津志
〃　「深田久弥『火にも水にも』」中村喜久馬
18　「審美眼について」大井広介
〃　「今月の詩歌俳壇展望」無署名
24　「第36回直木賞受賞者」荒正人、長谷川伸

平成16年9月30日受理

1
25「富嶽盗難」陣出達朗　2・15　12回完
29「スターとファン」板垣直子
〃「加賀家・中村歌右衛門」清水九瑋
31「近詠」（☆5首）近藤芳美
2
1「作者の全存在かける」（☆三島、野間、遠藤作の評）奥野健男
2「歴史と人間形成」阿部知二
3「作者の言葉」村上元三
6「加藤清正」村上元三　7・11　281回完
7「書評小泉譲『八月の砂』」中村八郎
8「あすは休日」古谷綱武
〃「モデル小説と名誉棄損」無署名
12「墨の色」山上千太郎
13「今月の詩歌俳壇展望」無署名
〃「肉体文学の再検討」十返肇
〃「表面だけの健康さ」牧田徳元
21「歴史副読本の役割」芳井先一
〃「総合雑誌評」中村哲
26「能登の雪・人」宮野茂太郎
〃「作家と自由」亀井勝一郎
〃「久留美とその作品」永山光林坊
27「利休忌に思う」大樋長左衛門
〃　折口博士偲ぶ会、石川県下の教え子達が発起（☆記事）
3
1夕「サルにかも似る」新田雨人
8「折口信夫先生の業績」西角井正慶
〃「近詠」（☆5首）近藤芳美
9夕「永井柳太郎伝」竹山重勝
10「尾崎士郎髄筆集『看板大関』を読む」安藤次郎
〃「水ぬるむ」川口久雄
3
14「摘み草」芦田高子
〃「水原秋桜子『旅訓れて』」黒田桜の園
〃「『新鵜』創刊号を読んで」高堀勝喜
15「文士の志くじけず―チャタレイ裁判の最終判決」伊藤整
〃「幸福への自由」富田三郎
18「チャタレイ裁判と島清」杉森久英
〃「知能と将来性」望月衛
〃「今月の詩歌俳壇展望」無署名
20「国会に望む」奥野信太郎
〃「水ぬるむ」水原秋桜子
〃「ソ連の窓エレンブルグ―来日する『雪どけ』の作者」原久一郎
〃「ぼけ」森美彌
22「知識人は何をすべきか―カミュ最近の発言」小松清
〃「芸術とワイセツ」西村孝次
〃「春の山」青山兵吉
25「安部公房著『東欧を行く』」無署名
27「海を渡る日本文学」無署名
29「文楽の今昔」副田松園
4
1「菜の花」津川洋三
4「つゝじ」藤田福夫
8「矢車草」牛丸良夫
11「正宗白鳥『懐疑と信仰』」青山光二
〃「久保田正衛『蓮如』第三巻」下出積与
12「世界政治の時代」安部公房
15「日本文学の土着性―『挽歌』の投げた波紋」小松伸六
〃「花見」村上賢三
16「源氏物語の女性観」熊谷直之助
〃「近詠五首」近藤芳美

4
17「春・ふるさと・文学―郷土作家のおくに対談」深田久弥、繁子夫人、杉森久英
22「消え得ぬ彼への敬意―新納琢川個人展に思う」高光一也
23「天皇とともに笑った二時間」火野葦平
24「性と法・実は法と道徳―チャタレイ裁判で大切な点」瀬沼茂樹
〃「良識とヒューマニズム―石川達三に対し」壺川隆
25「田上初雄『やくせん』寸評」窪田敏夫
〃「総合雑誌評」大井広介
26 金沢武士を書きたい、作家の田岡氏金沢へ（☆記事）
27「気の毒な歓迎―エレンブルグを迎えて」大井広介
29「血汐笛」紫田錬三郎　12・20　234回完

5
1「日本知識人の弱点」臼井吉見
2「憲法十周年記念日特集エッセイ」青野季吉、津田進、蠟山政道
7 今東光氏を訴う、実名ルポがデタラメと（☆記事）
8「亀井勝一郎著『現代史の課題』」無署名
〃 小説〃島田清次郎〃杉森久英氏発表（☆記事）
9「本願寺戦争」久保田正衛　257回完
10「打ちこわしと一揆」川良雄　6・8　30回完
11「本当は照れくさい―母親の立場から」曽野綾子
〃「子に甘える母親」森田たま
14「能と五流の師範」丸岡明
〃「作者の言葉」戸川幸夫
15「りんごの花」（☆短歌5首）斎藤史
〃「鬼の指紋」戸川幸夫　7・5　52回完
〃「北陸川柳大会抄」
16「室生犀星著『李朝婦人』」新保千代子

5
22 対談「酒・サカナ・女・庭」神保竜二、吉田健一
23「西村公鳳『雪浪』」細見綾子
〃「水原秋桜子『玄魚』」黒田桜の園
24 夕「日本の男とエチケット」古谷綱武
25 文芸春秋・文化講演会、6月13日に（☆記事）
27「『挽歌』はなぜ売れたか」無署名
〃「夢と現実」板垣直子

6
7「西田先生に学ぶもの」橋本芳契
9 久保田正衛「石山戦記（一向揆）」1182回
11 文芸春秋・文化講演会（阿部知二、村上元三、山本健吉、他☆記事）
17「私小説の没落と物語性の回復」佐古純一郎
〃「現代の矛盾」椎名麟三
〃「短歌五首」斎藤史
18「上半期の回顧・文壇」奥野健男
〃「故太宰治をめぐって・十回忌を特に盛大に」無署名
〃「インタビュー・戸川幸夫」
19「インタビュー・富田常雄」
20「インタビュー・村上元三」
〃「書評『漱石・龍之介の精神異常』」井村恒郎
〃「書評『おはん』」十返肇
21「インタビュー・丹羽文雄」
24「インタビュー・柴田錬三郎」
25「随筆・梅雨の晴間に」和田伝、星野立子、池島信平、新田潤、吉行淳之介

7
2 夕「父と娘」伊藤武雄
4「三島由紀夫『美徳のよろめき』」進藤純孝
〃「作者の言葉」鹿島孝二

7 6「一人息子」鹿島孝二　33・1・26　全200回完
9「感動なき現代文学」本多顕彰
〃「今月の詩歌俳壇展望」無署名
〃「道徳教育と犯罪統計」安部公房
11「『俳諧大辞典』を読みて」水原秋桜子
〃「室生犀星『夕映えの男』」無署名
17「トラックの窓」安部公房
24「千代尼のびょうぶ」久保田正衛
〃「小説的な『ジラード事件』」浦野春樹
25「東洋の心の再認識」川口久雄
26「人間・文学・社会」臼井吉見
〃「風化」（☆短歌5首）斎藤史
29「西日本の水害に思う」福田清人
31「対談文学・思想・宗教を語る」岩倉政治、村沢義二郎、松尾宝作
8 2「服装と犯罪」青山光二
〃「最低の道徳的要求」魚返善雄
〃「『花嫁』から『花嫁』まで」伊藤武雄
3 第一回嵯峨文学賞決る、中村喜久男氏（☆記事）
5「あらわな姿を見つめて」浅野幾代
〃「トッチャン人生」小松伸六
〃「悲劇・喜劇の同居」安部公房
6「運命」阿川弘之
7「不幸なのは誰か」武田繁太郎
15「去来自筆の『去来抄』」殿田良作
〃「日本人は変ったろうか？」亀井勝一郎
19「特集島田清次郎の人と作品」（☆記事）
20 盛んな芥川賞の映画化（☆記事）
8 22「丹羽文雄『親鸞とその妻』」無署名
〃「九月号総合雑誌評」中村哲
23「随想二題」高原武臣、高原千枝子
〃「戦争文学の出発点」奥野健男
27「生きもの」（☆短歌5首）斎藤史
28「来日する詩人達」高橋新吉
〃「九月号創作」浅見淵
〃「九月号文芸評」平田次三郎
9 2 けさ東京で国際ペン大会ひらく（☆記事）
8「国際ペン大会の成果」青野季吉、芹沢光治良（☆談話）
〃 夕「国際ペン大会を終って」川端康成
9「国際ペン大会の成果」伊藤整、高見順、アルベルト・モラビア（☆談話）
〃「モラビアとの再会」野上素一
10「心の病巣『晩歌』をめぐって」伊藤武雄
〃「国際ペン大会に出席して」川口久雄
13「地図にない島・作者の言葉」井上靖
15「地図にない島」井上靖　33・7・8　294回完
16「座談会職場文学の歩みと今後」平方秀夫他七名
17「国際ペン大会内と外」春木猛
20「暗緑の珠」（☆短歌5首）斎藤史
27「短詩型文学と社会性」麻生路郎
28 図書館利用層の分析結果（☆記事）
10 1「私の新聞記者生活」青野季吉
6 夕「わくら葉」杉原竹女
8 解かれた郷土作家のナゾ・徳田秋声、島田清次郎（☆記事）
10「歌集『源氏歌物語』」江戸さい子
11 夕「村祭」船登芳雄

10 18「ノーベル賞受賞のカミュ」佐藤朔
〃「曽野綾子のこと」鶴羽伸子
20夕「温かく血を通わせよう」綱村流水
22「長編小説界の問題作」村松剛
24「殿田良作著『俳人北枝』」密田良二
29「青少年の生活と読書」国分一太郎
11 3「森山啓さんのこと」伊藤武雄
7「現代文学への不満と疑惑」佐古純一郎
〃「時代の求める文学」高橋文雄
8「北国歌壇」尾山篤二郎選
〃「北国俳壇」沢木欣一選
11「流ちょうで不自然—曽野綾子さんの印象」太田順子
〃「ベストセラーの女主人公—宇野千代『おはん』から」暉峻康隆
〃「北国俳壇」富安風生選
12「ベストセラーの女主人公—三島由紀夫『美徳のよろめき』」小田切秀雄
18「不死身な活躍ぶり—詩人小野十三郎を語る」芦田高子
〃「北国歌壇」近藤芳美選
19「文学はこれでいいのか」佐古純一郎（☆談話）
22「巨大な新ルネッサンス—人工衛星と人類の運命」阿部知二
25「野間賞受賞を祝う—『女坂』と『おはん』」中村真一郎
〃「対談、日本の伝統と近代化」桑原武夫、川口久雄
26〃現代詩は歌でない、詩人小野十三郎氏が講演（☆記事）
「島清と暁烏敏—映画『地上』を見て」橋本芳契
〃「霧」（☆短歌5首）斎藤史
〃「ベストセラー主人公㊦樋口茂子『非情の庭』」阿部艶子
12 3「近詠5首」近藤芳美
12 4夕「じぶ考」殿田良作
6「大型化時代の不運＝文壇第三新人群のゆくえ」小松伸六
9「小山内薫と『自由劇場』」北村喜八
〃「地方演劇人の〃誇りと情熱〃」小幡義夫
〃「新劇復興のために」遠藤慎吾
11夕「『地上』の思い出」大河良一
17「純文学はどこへ」佐古純一郎
19「平野謙『組織の中の人間』」大井広介
20「認識と偏見」長与善郎
〃「作者の言葉」中山義秀
21「戦国残党記」中山義秀　33・8・9　230回完
25「失われた文学理念」佐々木基一
26「井上靖『天平の甍』」佐伯彰一
〃「ことしの出版界回顧・『挽歌』驚異的ヒット」（☆無署名）
31「岩田久男著『もうけ大将』について」芦田高子
〃北国歌壇、俳壇の選者交代、長沢美津、細見綾子に（☆記事）

昭和三十三年

1 1「三十三年元旦」（☆五首）尾山篤二郎
〃「宇宙時代を迎えて新しい文化の方向をさぐる」（☆座談会、きだ・みのる、亀井勝一郎、加藤周一）
〃「第五回北国文芸賞」（☆短歌、俳句、川柳）
〃「手マリの句」滝井孝作
〃「お正月ってふしぎだなあ」西条八十
3「元旦」（☆五句）山口誓子
〃「白山の鳥」中西悟堂
〃「詩こそ世界の魂」アンドレ・シャンソン（訳・芹沢光治良）

1
3「庵の春」（☆十句）富安風生
〃「金沢の正月」井上靖
〃「新春とは」室生犀星
〃「金沢を思う」曽野綾子
〃「川と女」森山啓
〃「二人の留学生」なかの・しげはる
4「新年文芸創作準入選・野火」松田章一　5、6日　3回完
〃「人間と文学」丹羽文雄
〃「カルタ・碁など」尾崎一雄
5「朝明け」（☆5首）近藤芳美
〃「文学と映画」（☆対談、川端康成、木下恵介）
6「現代女性の魅力」大岡昇平
〃「機能美反対論」安部公房
〃「中国と芝居」（☆対談、谷崎潤一郎、久保田万太郎）
7「新年創作合評」（☆対談、森山啓、伊藤武雄）
8「金沢を想う」秋山英夫
〃「江戸ッ子の虚無主義者」高橋義孝
〃「新年文芸創作準入選作・華麗の島」小林井津志　9、10日
3回完
9「北陸の雪」鬼頭英一
〃「あふれる妙味・俳味」大沢衛
10「初心」長沢美津
〃「希望」細見綾子
〃「日本文学を世界へ」ドナルド・キーン
13「成人の日に思う」武者小路実篤
16「芸術よもやま話」（☆対談、小林秀雄、黒沢明）
17「日記文学のおもしろさ」玉井幸助
〃「新年の詩と短歌と俳句」無署名

1
22「世界平和と人類の能力」荒正人
〃「今年の文芸界展望」小田切秀雄
24「居るが良い」安部公房
〃「新しい芥川賞作家」遠藤周作
25「作者の言葉」山田克郎
27「米兵の暴虐を描く新人の三作」浅見淵
〃「南海海盗伝」山田克郎　9・26　241回完
30「作者の言葉」白川渥
2
1夕「空も山も海も」白川渥　11・16　287回完
3「対照的な濃密さと雄大さ＝『杏っ子』と『迷路』」佐伯彰一
〃「女中払底と藩政期の奉公人」田中喜男
〃「〃幕末太陽伝〃の一面」羽仁五郎
6「一日一人・川端康成」（☆紹介記事）
〃「すぐれた文芸評論の四著」（☆青野季吉、平野謙、宇野浩二、佐古純一郎著）無署名
〃「楽師の語る能楽」丸岡明
〃「北国俳壇一月賞」富安風生推薦
11「モーガンの死―前国際ペン会長―」北村喜八
〃「北国歌壇一月賞」近藤芳美
18「典型的な左翼作家―徳永直の死」中島健蔵
24「美談の限界」安部公房
28「高光大船句集『化生』を読みて」山本清嗣
3
4夕「大観先生と金沢」小松砂丘
12夕「一日一人・宇野千代」（☆紹介記事）
17「宇宙の海」埴谷雄高
18「幼友の往復書簡」長沢美津、松田尚之
〃「時計の針」安部公房
〃「一日一人・井上靖」（☆紹介記事）

4
1　「北国俳壇三月賞」富安風生選
3　「『秋のめざめ』円地文子著」網野菊
4　「北国歌壇」近藤芳美、長沢美津選
8　「現代のヒーロー『人間の条件』の梶について」村上兵衛
10　「生体解剖と倫理的な痛み――『海と毒薬』遠藤周作著」佐伯彰一
11　「花見」福田清人
14　「結婚難」和田伝
15　「捕物作家に物申す――間違いだらけの時代考証」名和弓雄
25　「特集本紙連載小説の四作家を訪問」（☆井上靖、中山義秀、山田克郎、白川渥）
〃　夕「映画『杏っ子』」（☆成瀬巳喜男、香川京子対談）
5
9　「大岡政談所感」臼井亀太郎
〃　「北国歌壇」近藤芳美、長沢美津選
12　「九谷・友禅・きもの」（☆座談会、北出塔次郎、宇野千代、木村雨山）
〃　「北国俳壇四月賞」富安風生推薦
13　「篠塚しげる句集『曼陀羅』」高木餅花
〃　「北国歌壇四月賞」長沢美津推薦
16　「『蓮如』第五巻について」久保田正衛
〃　「不思議な話」曽野綾子
20　「紫煙百ドル也」戸塚文子
21　夕「北海道の旅」梅村澪子
29　「堀田善衛『現代怪談集』」小松伸六
〃　「加賀能登おくにものがたり第三巻」藤田福夫
6
5　「幸田文『番茶菓子』」川上喜久子
6　「道徳的勇気の喪失」杉森久英
9　「若い女性の魅力？――アメリカにおける日本ブーム」円地文子
6
9　「小さな声でものをいう効果」曽野綾子
〃　「さみだれ」てるおかやすたか
23　「今後のフランス文学」金子光晴
24　「勤評闘争はスポーツか」杉森久英
〃　「芭蕉と希因の碑」小松砂丘
26　「田谷充彦編『吟詠いしかわ』によせる」川口久雄、大河寥々
29　夕「百万円の思い出」中田忠太郎
30　「わからない絵」宮本三郎
7
1　「水原秋桜子著『能登の荒磯』」藤田福夫
〃　「北国歌壇」近藤芳美選
〃　「北国柳壇」細見綾子選
2　文春の文化講演会、今東光氏らの一行が小松へ（☆記事）
4　「二つの日本人の問題、権威へのもろさ」曽野綾子
〃　「二つの日本人の問題、闘争への強さ」杉森久英
〃　「面白くない純文学」無署名
6　「作者の言葉」高見順
9　「三面鏡」高見順　34・2・15　220回完
10　「この本を推薦したい」（☆アンケート、森山啓他回答）
11　「芥川賞作家は？」江藤淳
〃　「山本清嗣『破摩弓』」大河寥々
15　「現代小説の弱点をつくもの」村松剛
〃　農村を舞台に長編を、闘病生活から離れた森山氏語る（☆記事）
17　「大江健三郎著『芽むしり仔撃ち』」篠田一士
18　「加賀と能登、義経の伝説」小倉学
〃　「文壇『しろうと』の季節」宮部清
22　「高見順の『文学』について」十返肇
23　「一日一人・大江健三郎 芥川賞をもらった」無署名
〃　詩「七月の詩」浅野幾代

7
23「婦人にすすめたい本」河盛好蔵
25「童心にかえる老作家達」浅見淵
〃「高揚するイメージ―芥川賞の大江健三郎」山本健吉
〃「直木賞の山崎豊子」森繁久弥
〃「直木賞の榛葉英治」青野季吉
8
4「孤独の中の庶民愛―折口信夫・五年祭に寄せて―」藤田福夫
〃「文芸時評」佐々木基一
〃「北国歌壇七月賞」近藤芳美推薦
8「五味川純平著『人間の条件』」深井一郎
〃「武田泰淳著『森と湖のまつり』」梶圭之助
〃「石川達三著『人間の壁』」小島伊之男
〃「作者の言葉」富田常雄
10「江戸風土記　河岸の朝霧」富田常雄　34・8・7　360回完
〃夕「小舞子と芭蕉句碑」佐武松の舎
11「北国俳壇七月賞」富安風生選
14「男性を描いては随一―富田常雄の文学―」十返肇
18「十三年の文壇―『斜陽』から『人間の条件』まで」坪川孝志
〃「北国歌壇七月賞」長沢美津選
〃「野田山談義」殿田良作
19「雪嶺を望む仏塔―ヒマラヤ旅行を想う―」深田久弥
〃「野に遺賢なし」杉森久英
20「無邪気な科学者」曽野綾子
24「緑陰縦横談・武者小路実篤氏」（☆談話）
25「『金沢』という名の舞台―作品にみる思慕と郷愁―」南出勉
27「平和行進の党派性」杉森久英
28　今夜深田久弥氏ヒマラヤ踏査講演会（☆広告）

9
1「結末は美しい死で―高校の文芸誌にみる追求性」津田嘉信
〃「戦術としての評論集」野間宏
〃「北国歌壇」近藤芳美、長沢美津選
6「つづれ錦の妖しさ―鏡花忌に」窪田敏夫
〃「尾山と浪花と」富岡勉
8「千代尼の旅」中野塔爾
〃夕「芥川賞『飼育と私』」中村茂外
11「文壇再編成の前ぶれ・今秋発行の四同人誌」無署名
16夕「藤村のふるさと」山下久男
24夕「作者の言葉」村上元三
27夕「続加藤清正」村上元三　34・7・11　281回完
30「たくましい蓮如精神」久保田正衛
10
2「現代人にひそむ孤独感＝『海峡』井上靖」森井道男
〃「文学と近代性と現代」佐伯彰一
6「国民総喫煙運動」杉森久英
〃「古代の山岳信仰」小倉学
〃「北国歌壇九月賞」近藤芳美推薦
8「山瀬利夫『歌集忍従』」津川洋三
〃「忘却への思慕―日本の石仏の近著」鳥宮実玄
9「赤い曼珠沙華」細見綾子
〃「籠城の女ひと」小倉真理子
13「お里コトバ考」岩井隆盛
〃「嵯峨文学賞を設けて」西敏明
〃「才女群像①曽野綾子と有吉佐和子」無署名
14「才女群像②原田康子と山崎豊子」無署名
15「才女群像③広池秋子と仁木悦子」無署名
〃「舌切らずスズメ＝童話の日に寄せて」室木弥太郎
〃「組織悪」安部公房

10
15「ヨーロッパはあえいでいる―幸福な国・日本」今日出海
16「獅子文六『ドイツの執念』」前田慶穂
21「気取らない天才的哲学者・獄死した三木清を偲んで」樺俊雄
23「今東光『春泥尼抄』」殿下真
〃「みんな楽しそうに―故郷で両陛下をお迎えして」杉森久英
24「実証的精神の試練『松川裁判』のこと」亀井勝一郎
29「変節読書論」本多顕彰
〃「病める者の位置」加能洋吉
30「水芦光子『許婚者』」小松伸六
〃「伊藤整『氾濫』」奥野健男
11
3「山茶花の蕾―警職法と文学のことなど―」森山啓
〃夕「雨の日に」星野立子
5「北原白秋のこと」宮川靖
〃「悲痛なノーベル賞辞退―パステルナクをめぐって」小松清
〃「良心と貧困」安部公房
6ソ連へ本一冊運動、芦田高子さんが呼びかけ（☆記事）
10「静かなる街頭行進」芦沢光治良
〃「A・A作家会議の成果」加藤周一
11「ヒロシマの花束」大沢衛
〃「悲劇にみる人間の可能性」森井道男
〃「学生作家のこと」山下肇
13「句集『あらうみ』に寄す」山本清嗣
〃「あやしき女の執念・円地文子『女面』」無署名
15「作者の言葉」柴田錬三郎
17夕「今日の男」柴田錬三郎　34・6・10　200回完
18「秋声碑の前で」和座幸子
19「自分の一票」曽野綾子
〃「暗い時代―昭和八年の思い出―」田宮虎彦

11
20「高見順『昭和文学盛衰史』」橋好一
24「ソ連邦二ヵ月の旅」加藤周一
30「『人間の条件』原作者のことば」五味川純平
12
2「だから年をとらない」伊藤武雄
〃「生活と泉と文化」小島和夫
〃「北国俳壇十一月賞」富安風生選
〃「えらくなければいやな父親」曽野綾子
3「武蔵野初冬」水原秋桜子
〃「風船デモの背後」永井道雄
4「外村繁『花筏』」駒田信二
〃「五八年文化界の回顧・出版」巌谷大四
7「北陸新協の『島』公演を見て」吉安光徳
8「デモ隊はコッケイである」吉田健一
〃「世界仏教会議の旅」村沢義二郎
9「家族日記の試み」古谷綱武
10「北国歌壇十一月賞」長沢美津選
〃「流行歌と高校生」船登芳雄
17「師走に思う・一万円札は笑う」大谷藤子
22「三好十郎君の死」真船豊
30「今年度の文壇回顧」十返肇
〃「北国俳・歌壇の一年」近藤芳美、長沢美津、富安風生、細見綾子
31「ことしの大衆文学」真鍋元之
〃「ことしのベスト・セラーを切る」小島伊三男

昭和三十四年

1
1「美術の演出」谷口吉郎

1
1「新年公私」（☆短歌3首）土岐善麿
〃「第六回北国文芸賞発表」
〃「四巨匠監督大いに語る」司会・武田泰淳
3「イノシシの日本」高見順
〃「昔と今」（☆対談、谷崎潤一郎と吉井勇）
5「新年文芸創作入選作・受賞」浅野郁代、7日3回完
6「日々の戦い」大宅壮一
7「明日を背負う・水芦光子さん」（☆インタビュー）
8「新年文芸創作佳作・迷い犬」加納一清　10日3回完
14「不作の世代」宮本憲一
〃「情緒と運命の重さ」北條誠
15「成人の日に」武者小路実篤
〃「北国俳壇十二月賞」細見綾子選
16夕「すでに医師ゐて」綱村流水
18夕「忙しくなった空間」青山兵吉
21「源平合戦を撤いて―能登路を歩いた比丘尼たち」室木弥太郎
22「人間の条件をきる―文学と映画のあり方」（☆対談）
27「四十回直木賞の二氏を浮彫りに・総会屋錦城・城山三郎、落ちる・多岐川恭」
30「芦田高子『北ぐに』」藤田福夫
〃「志賀文学に欠くもの」（☆対談）
〃「柏禎句集『河口』」中山純子
2
2「地方作家嘆き給うな―文壇という社会」小松伸六
〃「メコン河にて」安芸皎一
3夕「南からの雪便り」浅野幾代
4「二月十一日に思う」三笠宮崇仁
〃「首都東京への不安」永井道雄
5「中村光夫『二葉亭四迷伝』」成瀬正勝

2
9「偉大と悲劇の谷間に・自由の戦士リンカーン」木田朝男
〃「生誕百五十年の三人業績をしのぶ」荒正人
〃「男性論」岩井隆盛
11「男性論」野間宏
〃「作者の言葉」火野葦平
16「花の座」火野葦平　35・1・19　335回完
17「北国歌・俳壇一月賞」近藤芳美、富安風生、長沢美津、細見綾子各選
18「歴史はブームでない」増井経夫
〃「のれんの価値」越村信三郎
19夕「手のひら」長沢美津
23「小村多喜二は過ぎ去ったか」岩倉政治
3
3「戦争文学は終らず」火野葦平
11「個人の尊厳を教える」丸岡秀子
13「加藤周一『現代ヨーロッパの精神』」伊藤武雄
17「北国俳歌壇二月賞」富安風生、細見綾子、近藤芳美、長沢美津各選
18「池田弥三郎『はだか源氏』」戸板康二
〃「S・グルサール『明日はそこにある』」金子曽政
19「落第生諸君！」荒正人
〃「日本ペン・クヘ一言」林健太郎
〃「『シュトルム撰集7』」吉安光徳
22夕「『金沢城物語』余話」森栄松
24「春の詩歌」山本健吉
〃夕「流行歌のなかの子供」八十田歳雄
26「城山三郎『総会屋錦城』」中村慎吉
〃「中山純子句集『茜』」北市都黄男
27夕「照る日・曇る日」中村喜久男

3 28 〃剣術ものはもう書かぬよ〃「阿岸の朝霧」の富田氏来沢（☆記事）
30 「詩人よ出でよ」亀井勝一郎
4 1 「アメリカ文学の周辺」清水思次郎
2 「深田久弥、風見武芳共著『氷河への旅』」無署名
3 夕「北国柳壇」麻生浩郎選
5 返ってくる松方コレクション（☆記事）
〃 「わが友スピッツ」宮崎正明
6 夕「アジアの光」橋本芳契
7 「地方文化は消えてゆく」杉浦明平
〃 「新田次郎著『海流』」無署名
〃 夕「謡曲の町金沢で」宝生九郎
9 「幸田文著『駅』」無署名
〃 夕「虚子と金沢」豊原月右
10 「日本列島の春」（☆詩）井上靖
11 「岩波の文化講演会十三日に、中野重治、都留重人」（☆広告）
12 「哲学不況時代」鬼頭英一
13 「見直したい啄木像」津川洋三
〃 「『中野重治全集』第一巻」大沢衛
16 「仏教と詩と」長田恒雄
17 「奉祝ブームと一家心中」大宅壮一
〃 「貝にはなりたくない」五味川純平
〃 「インタビュー『文学的感覚』の中村真一郎氏」
18 「北国俳歌壇四月賞」細見綾子、富安風生、近藤芳美、長沢美津各選
20 「皇太子に人間性を」白井浩司
〃 夕「めぐりあった墨跡」中本恕堂
27 「庶民の悲しい恋物語」森井道男
4 27 夕「無縁墓」小松砂丘
5 1 「悲しく寂しい花―荷風先生のことなど―」佐藤春夫
2 「堀田善衛『河』について」白井浩司
3 「児童文学の行方」鳥越信
4 舞台でキスした荷風―浅草の文豪と踊る―（☆記事）
9 「沖縄に旅して」山之口貘
10 「五月と万葉歌人」津田嘉信
〃 「生きている二葉亭―その死後五十年に」成瀬正勝
〃 文春講演会に三氏が来県（☆記事、中谷宇吉郎、火野葦平、遠藤周作の三人）
11 「経済小説を―自律性回復のために―」野間宏
13 「コレクション」奥野信太郎
14 「陶額」（☆短歌5首）中野菊夫
17 「科学以前」中谷宇吉郎
19 荷風氏の遺産評価は？（☆記事）
24 「愛情のありかた―『女流作家抄』のうち」森山啓
〃 「芝居の人気物」室木弥太郎
31 「君死に給うことなかれ―晶子逝きし日におもう」浦野春樹
〃 「チャタレイ騒動」平松幹夫
〃 「雨の薔薇」（☆短歌5首）近藤芳美
6 2 「北国俳壇六月賞」富安風生選
〃 「石川淳『霊薬十二神丹』」吉田健一
3 「東京オリンピック」阿部知二
4 「尼君花嫁学校」北畠八穂
〃 「ラジオ・テレビ芸術」野間宏
6 「日本新劇界の闘士―土方与志の志に思う」村山知義
9 夕「作者の言葉」飯沢匡
10 「晩年の西田幾太郎」田辺寿利

6
11「方言を尊ぶべし」柴田武
〃夕「紙・石・鋏」飯沢匡　12・8　全180回完
12「空間人時代」埴谷雄高
〃夕「入梅のころ」芦田高子
14「英国人気質」西田尚紀
〃「花によせて」（☆短歌5首）藤田福夫
〃夕「北国歌壇六月賞」長沢美津選
18「近藤芳美『或る青春と歌』」無署名
19「黒髪の魅力」石垣綾子
21「アメリカ行脚」長沢美津
〃「思想の新しい季節」竹内好
〃夕「『鍵』をめぐる対立、市川監督、原作者谷崎氏」無署名
22「グラマンと内灘」村上兵衛
24夕「北国俳壇」細見綾子選
28「有吉佐和子『紀ノ川』」小松伸六
〃「盗人根性」奥野信太郎
〃「聞く、見る話」大河内一男
〃「ルバング島」遠藤周作
〃「金色夜叉」戸塚文子
〃「水鶏」（☆俳句5句）杉原竹女
30「文芸時評（7月号）地方作家と女流作家より」小松伸六
7
2「工事現場にて」椎名麟三
3夕「北国歌壇」近藤芳美選
4夕「山に招かれる」山下久男
5「わが故郷の山」深田久弥
〃「対談・実証的精神」（☆来県した広津和郎と宮本憲一）
〃夕「作者の言葉」川口松太郎
9「上半期の文壇」無署名
7
9「書評『火をつけにきた男』水芦光子著」無署名
10「書評『嫉妬』白井浩司訳」村松剛
11夕「源太郎船」川口松太郎　35・6・22　全341回完
12「緑蔭随筆」大沢衛、萩原悠子、田谷充実、大河良一
16「戦中派の女性へ」遠藤周作
〃夕「北国俳壇」細見綾子選
19夕夏の夜の劇団北陸新協（☆記事）
21「芥川文学―河童忌に思う」室生犀星
24「文芸時評・東京集中排除法案」小松伸六
26「教師と貧乏」大河内一男
〃「ある夏休み族の思い出」伊藤武雄
27「ある早逝の天才児―犀星作『性に目覚める頃』の表悼影」新保千代子
28「文芸時評」村松剛
31「私の消夏読書」池島信平
8
1「町あるき―金沢文化について」堀田善衛
〃「クッチャロ湖の夕に」（☆短歌5首）津田嘉信
〃「モームと父と」加能洋吉
3「大江健三郎著『われらの時代』」黒田義人
6「作者の言葉」山手樹一郎
7「能は衰亡芸術か」白井浩司
8「亭主無用論」古谷綱武
〃「北国俳壇八月賞」細見綾子選
〃「北国歌壇八月賞」近藤芳美選
〃「詩「祈り」西野延子
〃「日本晴れ　八幡鳩九郎」山手樹一郎　35・10・29　455回完
9「八・一五の思想」橋川文三
〃「詩「熱き吐息」朝倉信太郎

8
11夕「ルーム・クーラー」埴谷雄高
〃「松川裁判を傍聴して」芦田高子
12「『斜陽』から十二年」宮川剛
15「戦後をこう見る」（☆対談、池島信平・高見順）
17「私の見た『百万石』」邱永漢
〃「日本が戻ってくる」尾崎宏次
18「堀辰雄のことなど」藤田福夫
〃「森有正『流れのほとりにて』堀田善衛『上海にて』」中村真一郎
20「パリには七百人・ヨーロッパの日本人旅行者」芹沢光治良
〃「人間の知恵」奥野信太郎
21「文芸時評九月号」小松伸六
〃「文化コジキ」戸塚文子
22「回想の中の藤村―その死後十六年に―」川口久雄
24「古里に月ありき」陣出達朗
26「開高健『屋根裏の独白』」埴谷雄高

9
1「ぶどうの季節」森山啓
3「『考える目』の美しさ」奥野信太郎
〃夕「二人の女流文化人」平松参郎
5「兵麓新秋」富安風生
7「泉鏡花その金沢的なもの」村松定孝
8「故郷を後に都へ出たがるが」杉森久英
11「樺の向うの落日」細見綾子
13秋と流行作家・沈黙破る三島の「鏡子の家」（☆記事）
17「ロケット昇天・かぐや姫考」大津有一
〃「飛行機の旅と荷物」木々高太郎
20「秋の季題」杉原竹女
21「武田繁太郎『芦屋夫人』近藤啓太郎『冬の嵐』」石川利光

9
21「椎名麟三『断崖の上で』」中村雄二郎
〃「北国俳壇九月賞」富安風生選
26「わが女性」窪田敏夫
27「海音寺潮五郎『阿呆豪傑』山本周五郎『いさましい話』」寺内大吉
〃夕「北国歌壇」近藤芳美選

10
1「新鮮な新聞への目」深田久弥
3「裁判官の物の考え方」家永三郎
〃夕「世界の流れのなかで④文化」加藤周一
4「文芸時評十月号」小松伸六
5「老齢年金」中川善之助
6「伝記『永井柳太郎』を読んで」清水兼男
〃夕「北国柳壇」麻生浩郎選
9「十月の森」（☆詩）江間章子
10「カミナリ族」乾孝
11「最近の中国文学」竹内実
12夕「美術館へ寄す」谷口吉郎
13「オズボーン他『若き世代の発言』」開高健
14「北国俳壇十月賞」富安風生選
15「細見綾子さんの『私の歳時記』」森山啓
16「えがたき作家里見弴」久保田万太郎
17夕「ツグミと鏡花」中島勝太郎
18「アメリカの仏教」中村元
20「ハーディと現代」大沢衛
〃「北国俳壇十月賞」細見綾子選
〃夕「犀星の妻の死に」新保千代子
21「最近のソビエト文学」原卓也
22「ベストセラーにみるヒロインの生き方」戸川エマ

10
24 「文芸時評十一月号」小松伸六
25 トップに『鏡子の家』秋によく読まれている本（☆記事）
27 「ハーディと潤一郎『春琴抄』について」太田三郎
31 文芸講演会案内―杉森久英、井上靖（☆記事）
〃 「井伏鱒二『木靴（サボ）の山』」平田次三郎
11
1 「『にあんちゃん』の感動」田宮虎彦
2 藤原道興の歌碑、羽咋市に（☆記事）
〃 「本の読み方」坂西志保
〃 「書評・三島由紀夫『鏡子の家』」吉田健一
〃 「北国俳壇十一月賞」富安風生選
3 作家井上靖氏の仲人だった戸田金大学長（☆記事）
4 ソ連の日本文学熱（☆記事）
5 「書評・井伏鱒二『珍品堂主人』」青柳瑞彦
6 「モームの旅」田中睦夫
7 「小説とモデル」井上靖
8 「書評・安部能成『戦後の自叙伝』」亀井勝一郎
9 「文学的な雑談」（☆座談会、森山啓・井上靖・杉森久英）
〃 夕「北国柳壇十月賞」麻生路郎選
10 「週刊誌と新聞の小説」松本清張
〃 「北国俳壇十一月賞」細見綾子選
11 「反抗と芸術」内村直也
12 「明かるい日」遠藤周作
〃 「北国歌壇十一月賞」長沢美津選
13 「女の作家三人旅・能登から加賀へ」（☆座談会、壺井栄・佐多稲子・芝木好子）
14 「書評・大仏次郎『水に書く』」沢野久雄
15 「日本の詩歌」山本健吉
17 「愚者の村　心の病者の村」芹沢光治良
11
17 「日本文化の優等生」加藤秀俊
19 「天平の古き時」森田たま
21 「嵯峨保二さんのこと」森山啓
22 「書評・室生犀星『かげろふ日記遺文』」円地文子
24 「サラリーマンと私」源氏鶏太
25 「堀田善衛著『後進国の未来像』を読んで」川喜田二郎
〃 夕「金沢行きの汽車」長沢美津
26 「ひとりの『作家』の誕生―十二月号の文芸作品―」江藤淳
29 「井上靖『敦煌』」三浦朱門
12
1 「不思議な影」埴谷雄高
6 「作者の言葉」富田常雄
9 夕「むらさき抄」富田常雄　36・7・13　579回完
12 「教養という衣装」増井経夫
14 「『日本三文オペラ』を読んで」杉浦明平
〃 「北国歌壇十二月賞」長沢美津選
15 「歳末のあわただしさ」畔柳二美
19 「伝承されたアイヌの叙事詩」金田一京助
20 「座談会『雑草のような命』日活金沢ロケを機に」（☆出席、森山啓、宇野重吉、浅丘ルリ子他）
〃 「北国俳壇十二月賞」細見綾子選
〃 犀星氏三つのプランを発表（☆記事）
21 「書評『完本高見順日記』」松島栄一
22 「『怒れる世代』の特権意識―文壇新人の在り方」河上徹太郎
〃 夕「北国柳壇」麻生路郎選
23 「北国俳壇十二月賞」富安風生選
30 「複雑な農村の顔―文学の点から」船登芳雄

（この稿、了）